コラム　ISO/TC190（地盤環境分野における地盤品質の標準化）総会への参画

2014年10月20日から24日にかけてﾄﾞｲﾂ連邦共和国ﾍﾞﾙﾘﾝ市のﾄﾞｲﾂ規格協会（**写真-1**）において第29回国際標準化機構第190技術委員会総会（以下、ISO/TC 190）が開催されました。

ISO/TC 190はISOの技術委員会であり、地盤環境に関連する分類、用語の定義、土のｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ、土の特性の測定と報告を含む地盤環境分野における地盤品質の標準化を目的として1985年に設置されました。日本からは、日本工業標準調査会が参加標準化団体として1952年から参加しています。現在、(公社）地盤工学会がISO/TC190の国内委員会の運営を担っています。

写真-1　ﾄﾞｲﾂ規格協会（DIN）

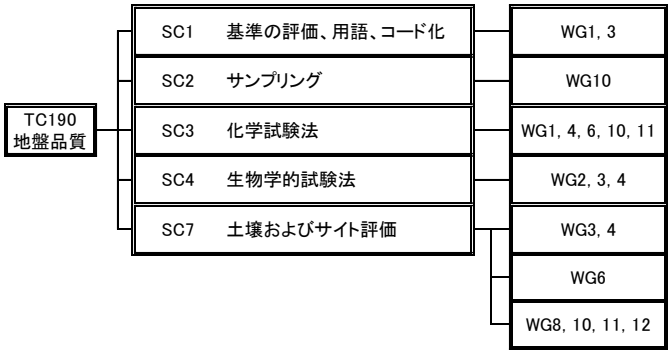

図-1 ISO/TC190の組織構成

総会には、ﾌﾗﾝｽ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾄﾞｲﾂ、日本などの13カ国から総勢90名が参加しました。日本からは、国内委員会の防災地質ﾁｰﾑの田本研究員を含む委員13名が参加しました。ISO/TC190では、**図-1**に示す5つの分科会（SC1、2、3、4、7)と各分科会の下に合計18のﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ（WG）に分かれて会議が開催されました。これらの会議のうち田本研究員はSC7/WG6（溶出試験）に参加し、ﾄﾞｲﾂ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾌﾗﾝｽ、韓国、日本からの11名の委員とともに、溶出試験の規格について審議を行いました。今回、ﾄﾞｲﾂと日本からISO/TS 21268-1~3 ″Soil quality – Leaching procedures for subsequent chemical and ecotoxicological testing of soil and soil materials Part 1～3″（土ならびに土質材料の化学的・生態毒物学的試験のための溶出方法－その1～3）の技術仕様について、国際標準にする提案が行われました。

このうち、**ISO/TS 21268-3では日本が上向流ｶﾗﾑ溶出試験方法を提案しました。この提案内容は、現在、防災地質ﾁｰﾑが研究を進めている自然由来重金属類の溶出試験方法に関わるものです。WGでは、技術仕様を改定することが決定され、その後の全体会議で承認されました。今後、日本がﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰとして、積極的に国際標準化を進めていくことになりました。**